

## ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No.10

1976年

5-6月号

## ☑ 行 事 案 内

## ◇ 布施弁天付近探鳥会

月 日 5月9日(日)

集 合 北柏駅改札口 午前8時

担 当 畑 飯泉・石戸

案 内 北柏駅ー布施弁天ー付近湿地ー土谷津ー我孫子駅。正午頃解散の予定ですが軽食持参とします。

チュウシャクソギ、ムナグロ、アマサギ等が布施弁天付近の湿地帯で観察できます。

## ◇ 愛鳥週間の集い

月 日 5月16日(日)

会場等 我孫子中央公民館 午後1時より  
午後4時まで。

催 物 講演とスライド

講 師 笹川昭雄氏(山階鳥類研究所)

映 画 自然を護る人々、他

会 員 吉田孝久氏 } 両氏の作品  
中村義郎氏

(我孫子の自然が沢山でてきます、その他会場では鳥の写真の展示、鳥の声の録音もきかれます。)

我が、我孫子野鳥を守る会は、第30回目のバード・ウィークにあたり、愛鳥の集いを催すことができるように成長しました。ありがたいことです。

会員の方々はもとより、会員外の方でも野の鳥たちに興味をおもちの方、自然を大切にしたいと思っておられる方、どうぞ、おでかけ下さい。おまちしております。

## ◇ 谷津干潟探鳥会

月 日 5月23(日)

集 合 我孫子駅南口階段上 午前8時

担 当 高橋、吉田、畑

交通機関 我孫子ー柏(国電) 柏ー船橋(東武) 船橋ーセンター競馬場前(京成) 競馬前ー若松団地(バス) 切符は各自買って下さい。往復800円以内

案 内 谷津干潟は、春秋の渡りの季節に多くの鳥達が、この干潟を中継地として、南から北へ、北から南へと渡ってゆく。今頃は北へ向うソギ、チドリ達の最後の群に会える頃だ。シロチドリの大群にでもぶつかったらみものだ。

今も、この干潟を埋立から守るため、多くの人達が多様な運動をつづけている。一人でも多くの人達が、この干潟の重要性を認めて下さるよう。是非参加して下さい。

## ◇ 声の仏法僧を訪ねて

本栖湖探鳥会

月 日 6月5・6日(土・日)雨天決行

集 合 午前9時 我孫子中央公民館前

担 当 坂巻、畑、渡辺、高橋、石戸

交 通 貸切バス利用

費 用 概算8,000円(バス・宿泊代共)

出発するとき集めますが、あまりましたら清算の上、お返しいたします。

定 員 25名。渡辺会長宅へ申し込んで下さい。先着25名で切ります。

会長宅電話 0471-82-0521

宿 泊 精神湖近く青木ヶ原の樹海の中にある、民宿「やまばと荘」(朝は小鳥の声が

いっぱいです) 田 055587-2406。

持物等 5日の昼食弁当。宿で夕食後、バスで本栖湖畔に行き、声のブッポウソウをききますので、ちょっとした防寒具を用意して下さい。はきものは運動靴程度のもので可。

その他、観覧用具。(双眼鏡のない方は、会にある双眼鏡をお貸しいたしますので参加申込みの際申伝え下さい。

懐中電灯があれば便利です。

案内 富士の裾野に広がる原生林と湖への声の仏法僧をきく探鳥会です。

我孫子では味わえないクロツグミ、ミソサザイ、……………等のコーラスと山の景色を楽しみ、夜はコノハズク、トラツグミ、ヨタカの声をききます。

とても素晴らしいところです。担当幹事は十分満足して頂けるような行程を考えております。

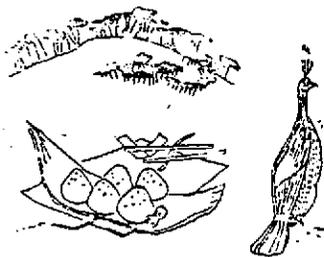
#### ◇ 笹川探鳥会

月日 6月13日(日)  
集合 午前8時、我孫子駅改札口  
担当 吉田 飯泉 山崎  
交通 我孫子-成田-笹川  
(往復900円位)

案内 我孫子駅8時14分成田行乗車  
笹川駅着9時57分

利根川付近のアン原でコジュリンを主体とした探鳥です。(日本でも数少ないコジュリンの繁殖地です。)

その他水辺の鳥が見られます。昼食持参のこと。



## △ 行事報告

### △ 狭山湖探鳥会(含多摩湖)

(2月22日) 曇

<認めた鳥> ホオジロ、シジュウカラ、ツグミ、キジバト、ハシボソガラス、ヒヨドリ、コサギ、スズメ、モズ、カワラヒワ、タヒバリ、ミコアイサ、カイツブリ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ  
(以上21種)

<参加者>

渡辺波江 深谷幸枝 布勢むつ子 橋本えい 金井 隆 白羽たかぶみ 三神鶴吉 三神淑子 志田十九次郎 飯泉 仁 吉田 昇  
(以上11名)

### △ 手賀沼探鳥会 (3月14日)

晴れた青空の下、春の陽光をあびて、市役所から沼の南岸を北柏迄歩きました。

集合地市役所前ではウグイスがよく囀っていました。沼辺のアシの穂先にとまったオオジュリンの頭は黒くなりはじめていました。

カワラヒワの小群がいくつも囀りながらアン原をまわっていました。

オオパンの弁足がよくみられました。

期待した柏よりの湿地帯はすっかり乾いてしまつてシギの姿はありませんでした。

鳥合せをしていたら、ここでもウグイスが囀っていました。

<認めた鳥> カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、オカヨシガモ、カイツブリ、オオパン、ユリカモメ、コサギ、ダイサギ、ツグミ、タヒバリ、ハクセキレイ、イソシギ、カワラヒワ、オオジュリン、ホオジロ、アオジ、スズメ、ハシボソガラス、ウグイス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、コジュケイ、バン、カンラダカ、キンクロハジロ  
(以上28種)

〈参加者〉 玉崎幸二 星野明彦 中 弘  
志賀鉄雄 吉田 昇 塚田恭子 塚田一樹  
片山美佳 飯泉 仁 畑 幸正 高橋敏夫  
(以上11名)

#### △ 古利根周辺探鳥会 (3月28日)

前日の天候不順も嘘の様な静かな春の日に  
恵れ午前8時30分湖北駅改札口に集合、駅  
より一筋道を利根川に向け古利根畔に至る。  
此処より竹林の細道を右折し自然林に入った  
観察に先立ち吉田さんより古利根周辺の環境  
や、鳥相の説明を受け出発した。

手賀沼と異り地味な探鳥会であまり成果を  
期待してなかったが樹間の観察であるため鳴  
声に依る識別を教えられつとゆつくりと静か  
に進む。此辺は宅造開発の進む我孫子にあっ  
ては珍しく自然が其儘に残されている貴重な  
処だ。ものの芽が吹出ている林を進むと利根  
川土手の畑地が展開する。

この間、シメ、ハクセキレイ、カケス、ビ  
ンズイ、と楽しい観察をする事が出来た。山  
ひだにそいて北面より南面へ探鳥をしつゝ自  
然の姿を楽しみつゝ古利根へ戻る。

このコースは距離の割に秋は栗、萩、芒、  
と散策にも面白い処だ。その頃は移動中の或  
いは越冬準備の鳥がいるに違いない。

後半は宅造の進んでいる道を散々互々芝原  
城趾(個人所有地)に至る。

桜の蕾が太む無人の庭を借り青草の萌える  
上に車座で今日の成果を語り合ひ一時、ウグ  
イスが美ごとな鳴声を聴かせてくれた。

今回の探鳥会は22種の鳥を観察したし考  
えて居たより成果の多かった一日であった。  
参加されなかった方々も是非気楽に出かけら  
れたらと御紹介を致します。

(中尾照平)

〈認めた鳥〉 ムクドリ、ヒヨドリ、キジ  
バト、オナガ、ハシボソカラス、モズ、コチ  
ユケイ、ホホジロ、ヒバリ、カワラヒワ、カ  
ケス、ウグイス、ハクセキレイ、ビンズイ、ツ

グミ、タヒバリ、ジョウビタキ、アオジ、メジ  
ロ、カシラダカ、シメ、スズメ

(以上22種)

〈参加者〉 吉田 昇 渡辺義雄 木村  
稔 村上敬子 遠藤聡美 柴田満子 中尾照  
平 中尾米子 松田幸保 青山一二 志賀鉄  
雄 (以上11名)

#### ○ 三谷澄子様のご逝去を悼む

1月29日突然三谷様の悲しみのしらせを  
うけました。

謹んで哀悼の辞を捧げます。

明朗にして、温情に満ちた人柄。会員一同  
に親しまれた三谷様。賢婦人であり、良きお  
ばちゃまでもありました。歯ぎれのよい聡明  
な言葉は、今でも耳の奥底に残っております。

うけたまわるところによりますと、ご主人  
様が農林省京都在勤中は、日本野鳥の会京都  
支部の会員で居られ、探鳥会は、比叡、生駒、  
貴船、鞍馬の山々、琵琶湖等、京都府、滋賀  
県をお廻りになり、十余年の歳月を野鳥保護  
に、ご活躍なされた趣。誠に感謝にたえませ  
ん。

我孫子にお住いになられてからは、10年  
のご様子です。47年我孫子野鳥を守る会に、  
ご夫妻お揃いで入会され、市内の探鳥会を始  
め、印旛沼、古徳沼の白鳥見学等自家用車を  
駆ってのご努力は、今でも憶い出となって、  
居ります。豊富な知識の持主でございました。

令(よわい)62才にして、この世を去ら  
れ、かえすがえすも残念です。

2月1日午後5時より、ご自宅に於いて、  
お通夜が行なわれ、幹事一同薫る白菊を捧げ  
ご冥福をお祈り申し上げました。

2月2日告別式が東京水道橋ガトリック神  
田教会に於いて行なわれ、高橋敏夫さんと私  
が、会を代表して、参列いたしました。

薫る白花のカーネーションをお供えし、永

速に別れのご挨拶を申し上げました。

故マリア三谷登子様 さようなら。

(渡辺義雄)

### ○ 三谷さんの思い出

探鳥会の折にはじめてお逢いして三年余りの短い交りで、断片的にしか三谷さんを知る機会がありませんでしたが、あの明るいお顔、キビキビとしてユーモアに富んだお話し、心豊かな誰からも好かれる方でした。

子供好きでいつの探鳥会の折にも子供さんの中に入って、ニコニコしながら説明をしていらっしやる姿が強く印象に残っています。

野鳥に対して全く無智だった私などは、野鳥の名前、生態、啼声など随分教えて頂いた事が今更のように思い出されます。その他にも四季折々の花を咲かせて見せて下さいました。お世話好きの三谷さんのお宅には常に大勢のお客様が絶えないとも伺っていました。そのタフな日常を見聞きする度に驚いたり、感心したりしていました。

あんなにお元気だった三谷さん…… 渡辺会長さんから貴女の訃をお聞きしてもしばらくは信じられませんでした。今でも車の中からお顔を出されて声をかけられるような気がします。お通夜に伺った時、いつもの如く笑いかけられるようなお写真に心からさようならと云った後、私の全身の力が一度に抜けるようなショックを感じました。人間の生命なんてこんなに脆いものなのかと、自分自身の健康に自信を失いかけて居ります。

趣味でなされた七宝焼の細工物、私もわけて頂いたネックレス・指輪などの幾つか残っています。三谷さんの思い出として、永く大切にしたいと思っています。七宝焼の教室を開きたいと御自分の夢を語られたのもつい最近の事でしたのに残念でなりません。

野鳥を愛し花を愛された三谷さん…… ど

うぞ安らかに昇天なさって下さい。

御冥福を心からお祈りいたします。

○ 共に見し椿の垂り花ゆらぐ下にはかに遊ぎし君をし思ふ

○ 白き花にかくまれ眠る通夜の夜の君がうつしえに別れを告ぐる

水 垣

### ◎ 市川の行徳人工干潟探鳥日記

三 神 繁 吉

昭和51年1月16日(金)晴、暖し、今日は娘が会社を休むので、自動車探鳥に連れて行ってくれると誘ってくれた。今年は感冒で何処へも出かけてないので、喜んで応じ、会社は休暇をとり、10時妻と3人で、行徳の人工干潟へ、スズガモを見に出かけた。

先づ宮内庁御猟場正門脇の外縁へ案内する。昨年秋2~3回来た時には、ゴイサギの幼鳥と、バンが10羽前後は、何時でもいたのだが、今日は1羽も見えない。自動車は遠くで降りたのにどうしたことだろう。

目的の人工干潟の方へ行く。歩いている道の左側は、10年前位までは釣舟の舟泊りであった所で、丁度引潮で干潟になっていて、コサギ、ダイサギ、コガモ、ハクセキレイ等が餌をあさっていた。望遠鏡をこれにあわせて、妻や娘にそれぞれの特徴を説明する。人口干潟の入口水門の所へ来た。然し入口には今までにない大きな鉄の柵がしてあって入れない。よく見ると柵の右端の水路に出張っている下の所に、人が出入りして光っているあとがある。娘と妻はくわがっていたが、なんとか工夫してそこから入る。

樹相がよく繁茂している広い御猟場の池の中にいるオナガガモ、コガモ、ハシビロガモ、コサギ等を見てからコンクリートの長い堤の先へ入って行く。この広い干潟に、誰もいない、3人だけである。静かな風景である。

干潟の東側水面には、頭部、頸、胸は真黒

で、背は灰色、腹と脇は白く見えるスズガモが、いるほいは驚く程いる。望遠鏡で見ると、真夏大勢の人々が、混んで、芋を洗っている様に見える湘南の海水浴のようで、泳いでいるもの、もぐるもの、水浴びするもの、ねむっているもの等々、その姿は様々で、見ている飽きない。1月14日附朝日新聞京葉版に、ここにスズガモが4万羽もいると、報じている通り、1、5千粒の南北に細長い水溜まりにその4万羽のスズガモがギッシリいる。スズガモは群をしていると図鑑に書いてあるが、驚きの壮観である。外にいた鳥といえば、コガモ9、バン1、アオサギ1、空にトビが1羽飛んでいただけである。

新聞に出ていた市川市で建てた2階建の野鳥観察室は、私達がこの干潟に入る時探したが、見当らなかつた。入って見ると西側の埋立地に建ててあり、双眼鏡で野鳥の観察舎とたて書きの看板が目に入った。そこまで来なければ何の案内板もないので判らない。まもなく1人の青年が私達の所へ来て、棚の外へ出て欲しいという。附近の釣は一切禁止であり、こゝへ入るのには観察舎の許可を必要とする様であった。聞くと観察舎の管理人蓮尾氏であった。

私達は我孫子の野鳥会の者で、入る時観察舎の場所が判らなかつた旨を述べた所、我孫子野鳥会の高橋さんはよく知っているとして、12時までに出ればよいと云い、時間の余裕を与えてくれ、その上大変親切にオオハクチョウが1羽見える所へ連れていって、色々説明してくれた。このスズガモの数は日本一であり、又この鳥はアサリやハマグリを餌としているのだと聞き、これだけの鳥がこれらの二枚貝を毎日たべると、その数の多さを想像して、ゾットする思いがした。

従って、カモは夜はどこかに餌をとりに行き、昼間こゝでたゞ休んでいるだけである。この干潟はまだ新しく水がきれいなので、集まる鳥の種類は少いとのことであった。

帰途観察舎の2階へ上り、入場者名簿に3人の名前を記入して、其処から又望遠鏡でスズガモを見たが、遠くて其の生態はよく見えなかつた。ここにはまだ備付けの望遠鏡はなかつた。この管理者蓮尾氏夫妻は毎日この附近(御旗場と人口干潟)の野鳥の観察をしており、今日の記録が次の通り、黒板に書いてあった。○印は私達が見たものです。

鳥名	数	鳥名	数
カイツブリ	5	ヨシガモ	1
ゴイサギ	2	ヒドリガモ	11
○ダイサギ	2	○オナガガモ	24
○コサギ	7	○ハンビロガモ	70
○オオハクチョウ	1	ホンハジロ	1
カルガモ	470	○スズガモ	4万
○コガモ	57	ヒヨドリ	1
キンクロハジロ	7	○モズ	3
セグロカモメ	2	ツグミ	13
ユリカモメ	6	ウグイス	1
キジバト	8	セツカ	1
ヒバリ	2	ホオジロ	7
○ハクセキレイ	8	スズメ	220
タヒバリ	1	ムクドリ	1
○トビ	1	オナガ	1
○アオサギ	2	ハンホンガラス	1
チョウゲンボウ	1	コミミズク	3

以上

いよいよ、アオバズクが帰ってくる季節となりました。我孫子には何羽いるでしょうか。今年はまだみてみたいと思っております。

皆様からの情報を会長までお知らせ下さい。

### △ 清掃作業は楽しい

昨年に続いて、今年も市役所商工課より依頼され、手賀沼公園より手賀大橋まで、葦原の清掃作業を行ないました。1月29日より作業にたずさわったメンバーは、昨年同様、武子、中村、荒井、大井、岡田、大串さんと私の7名。今年は最初から天候に恵まれ出足好調。仕事の順序も覚えているし、農家育ちの労働には骨身を惜しまぬ人達。おのずと作業は、はかどりました。

始めるまでは、寒さに震え、いざ仕事にかかると、一鎌一鎌打振るごとに汗が体を流れ、湯気さえたちました。

昨年は、どこもゴミの山でしたが、今年は若松地区の皆様方の御協力がありまして、たいへん綺麗でした。今後も一層美化運動を推進してほしいと思います。

最近の世相は、高度成長の影響をうけ、日常生活にもくろいが生じて居ります。公德心が欠け、利己主義が口走り、人に迷惑をかけることが、何でもないような時代になっております。ゴミ、空缶、煙草の吸殻など、ところかまわず捨て放題。ゴミの中の生活であります。他人を思い、まわりを考へることも、今一度大切なのではないでしょうか。

自分も社会の中の一員であることを忘れてはならないと思います。

私達はこのような問題を真剣に考え、反省し、美しい町にしたいものです。

その昔の手賀沼は、夕日に映える落雁、逆さ富士と言われ、その風情のすばらしさは、我孫子の住民のみが味わえるものでありました。

渡辺 義雄

### 御 寄 付 金

50年度の御寄付金を次の方々から、頂きました。厚く御礼申し上げます。

金 8,800円	新 妻 良 子 様
金 3,800円	上 野 成 久 様
金 1,000円	鈴 木 喜 世 志 様
金 5,000円	栄 町 会 様
金 5,000円	NHK 様
金 800円	横 田 正 己 様
金 1,200円	鈴 木 章 二 様
金 4,800円	天 羽 武 様
金 11,755円	布 佐 中 学 校 学 生 会 様

### 後 記

市川の行徳人工干潟探鳥記で、三神さんは、スズガモ4万羽が、二枚貝の稚貝をたべる量を想像して、驚かれたとありますが、それが自然界のルールで、稚貝は喰べられてこそ、その種が保たれているようです。管理人の遊尾さんは、スズガモ4万羽が滞留できる環境が残っていることを云いたかったのではないかと思います。

丹沢山塊の中川温泉付近で、怪しい音がしていると、いうことをテレビで見ましたが、怪音の主はトラツグミに間違いないと思われまふ。時々話題になる鳥です。本栖湖探鳥会では、きっとよく鳴いてくれると思います。

ホテル池の水もぬるみ、夜になると、幼虫の光るものが、みえるとのこと。増殖は順調のようです。担当の方々御苦勞様です。

高橋 記

### 我孫子野鳥を守る会会報 第10号

発 行 人	渡 辺 義 雄	TEL 82-0521
住 所	我 孫 子 市 高 野 山 5 5 6	
振 替	京 京 4 - 5 1 6 2 3	我孫子野鳥を守る会